

平成25年度船橋市国際交流協会総会



平成25年5月14日（火）午後2時30分市役所11階の会議室で嘉規副会長の司会で開会されました。

○田村会長の挨拶要旨

協会設立のきっかけとなったヘイワード市との姉妹都市締結がこの会議室で行われ、また昨年の10月にもここで協会設立25周年記念式典が開催された。市在住外国人の方々も年々増加しています。彼らの子息が教育や社会環境になじめるように、協会としても対応しています。数年前には市管轄の日本語教室・YOKOSO to Funabashi・外国人相談窓口の3活動を協会直属の委員会としました。さらに当協会の提案で作られた近隣8市の協会間の連携を密にして、少し遅れているわが協会の活動をさらに強化するつもりです。そして、日本語教室の学習者アンケートで指摘された市民と彼らとの親交を深めながら、災害時にも外国人が心配なく避難できるように手助けするボランティアを養成していきます。

小石議長の進行で平成24年度活動・会計報告、外国人子息の日本語教室プロジェクトを協会の「地球っ子委員会」とすること、平成25年度の事業・会計計画案、

一部理事の入れ替え等の各議案が可決されました。

○参加者からの質問

個人協会員637名の内外比率はどの位ですか？（答え：日本人85%）

会費収入が会員数と比べて少ない理由は？（答え：未納者が2百数十名いるため）

繰越金180万円程の額が毎年繰り越され、会費収入より多いのは不自然ではないか？（答え：年度会費収入の範囲で活動をするよう節約をしている。その結果ボランティアに一部費用を負担してもらっているの、今後見直したい。）

日本語教室も良いが外国語教室も欲しい。（答え：今後検討する）

個人会費が現在年1,000円で少なすぎるのでは？（答え：他市の協会を参考に今後見直しを検討し、協会の財政基盤を充実させたい）

その後、早稲田大学国際教養学部教授 重村智計 講師による講演「今、北朝鮮はどうなっているのか」がありました。

広報委員 田嶋

平成25年度 役員一覧

（ ）は担当

役 職	氏 名
会長	田村 泰一
副会長（文化交流）	嘉規 洋
副会長（広報）	小石 裕久
副会長（国際理解セミナー）	荒谷美枝子
副会長（日本語教室/相談窓口/ようこそ/地球っ子）	宮 慶助
副会長（総務）	日野 隆
監事	相澤 友夫
監事	目崎 誠

役 職	氏 名
総務委員長	日野 隆
広報委員長	塚原美都恵
文化交流委員長	嘉規 洋
外国人相談窓口委員長	野上 紘子
ようこそふなばし委員長	清河 昌之
日本語教室委員長	大前 肇
国際理解セミナー委員長	今村 俊一
地球っ子委員長（新任）	浦和かほる

バス研修 文化交流委員会

5月29日(水)、つくば地区へのバス研修旅行が行われました。雨を思わせる空模様でしたが、幸いにも最後まで雨具不要の日でした。外国人12名を含む、総勢43名の満席で、つくばの国土地理院、国立科学博物館筑波実験植物園、筑波宇宙センターと日本の先端活動の一部に触れる盛りだくさんの見学でした。

国土地理院での最初のイベントは赤青メガネで見る立体「日本列島空中散歩マップ」でした。陸地の地形は比較的なじみの深いものでしたが、立体的に見る日本海溝の海底深淵は思わず引き込まれそうな壮観でし

た。まずはこのフロアで全員の記念撮影。実験植物園は一般の植物園とは少し趣が異なり、プロジェクト実験場を思わせるレイアウトを諸所にうかがうことができました。見学個所は限られましたが、中でも絶滅危惧種保存への多様な取組みが印象に残りました。宇宙センターでは、歴代の人工衛星の試験モデルが展示されているスペースドームへ。歴代モデルに加えて現在活躍中の宇宙実験室「きぼう」の実物大模型がありました。「こんなものであの広大な宇宙に出るの!」と冒険の大きさを意識せざるをえませんでした。でも、誇らしげで、一つでも多くを伝えようとする説明員の熱心な解説に、作り上げてきた技術への強い誇りを感じさせるものがありました。

盛りだくさんで少し疲れ気味の見学も帰りのバスのビンゴゲームで解消、楽しい研修旅行となりました。同行の外国の人たちに聞いてみました。「自分達だけではあまり行かないような所なので興味深かった」との感想もありましたが、簡単な見どころ解説などが事前にあれば見たもの以上のものをより感じてもらえるかなとも感じました。 広報委員 廣田



国土地理院のフロアで

新委員会 「地球っ子」 発足

5月14日(火)開催された協会総会で、新しく「地球っ子委員会」の設置が承認されました。このプロジェクトは任意団体として「外国人児童生徒が、より早く日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行うことを目的とする」という趣旨のもとに2003年から活動を始め、2006年に現在の形の「子ども日本語教室」を東部公民館で開講しました。信頼性のある活動をしていることを認められ、2008年から昨年まで文化庁の委託事業でもありました。当協会も発足当時より後援してきましたが、この活動は協会の規約(目的)に合致すること、協会活動の充実にも資することから協会組織に組み入れることになりました。

教室は毎週土曜日午前中に東部公民館で開かれ、対象は原則小学生、中学生ですが、幼児や高校生も在籍可能です。会費は1家族月500円で、小学生以下は保護者の送迎が必要です。現在在籍生徒は22名、指導ボランティア10名ですが、60名以上の生徒がいた年もあったそうです。クラスは1グループ、1名から3、4名規模で行われていて、在籍は平均6、7ヶ月とのこ

とです。案内パンフレットは教育委員会の転入窓口、国際交流協会事務局(協会窓口)に置いてあります。近々協会のホームページにも参加する予定です。見学をした日、子どもたちが楽しそうに学んでいて微笑ましく、またボランティアの皆さんの努力の成果だと思いました。

広報委員 中川



昨年の夏休み教室で行った葛西臨海公園で



文化交流委員会
荒谷 晃行

近年の中国の各都市は目を見張るほどの変貌を遂げていますが、船橋市の友好都市である

宮内の本格的修復が進む重陽宮

西安市も同様に友好都市提携20周年を迎える今日では、その変貌ぶりに驚かされます。特に大雁塔を始めとする各観光地は、北京オリンピック、上海万博を契機に様変わりしており、わずかに友情無限碑と桜植樹の記念碑が当時の面影を残しているにすぎません。

そんな変貌する世相の中で、両市は来年20周年を迎えますが、当時から変わらぬ絆で結ばれているものに「重陽気功」があります。両市の友好交流促進のため西安市から船橋市に伝わったこの気功は今船橋に定着し大きな発展を見えています。その気功の発祥地が戸県にある王重陽の開いた「重陽宮」です。

1989年船橋市と交流が始まり、重陽気功の受講者一行が初めて重陽宮を訪れた時は、まだ雨漏りのする荒れ寺で、屋根の修理のための義援金を募ったこともありました。

当時の重陽宮のある戸県は、西安市とは言っても

整備のされていない田舎町で、日本からの訪問者が珍しいのか 門前には近在の老若男女や幼児まで見物に集まり、黒山の人だかりで異様な雰囲気だったことが、今では懐かしく思い起こされます。

時は移ろい、近年 重陽宮も古の隆盛期を再現させるための修復工事が急ピッチで進められています。

そんな中、昨年11月、王重陽祖師の生誕900年祭が盛大に執り行われました。

西安市に旅すれば、必ず兵馬俑、華清池に案内されます。近年は空海の修行した青龍寺も改修され、阿倍仲麻呂の像とともに日本人向けの観光地として人気を博していますが、船橋市の人なら一度は、郊外の戸県を訪れ、「重陽気功」のふる里 重陽宮を参拝するのにも一興ではないでしょうか！！



宮内の本格的修復が進む重陽宮



重陽宮の碑林
秘語が残されている石碑

にほんごきょうしつしょうかい 日本語教室紹介シリーズ



シリーズ 5
回目の今回は
二和公民館にほん
語教室を訪問し
た。

学習者は約20
名、支援者は約

10名と他の日本語教室と違って比較的小人数である。学習者は中国、フィリピンから来た人が多いが、高校生から昼間は働いている人や家庭の主婦まで幅広い構成になっているとのこと。学習材料は基本的には日本語教科書であるが、文法中心ではなく、日本での日常生活に役立つ会話表現が主体となっているように見受けられた。その他にも訪問当日には新聞のコピー記事や高校の宿題なども題材として使われており、学習者のレベルに応じたわか

No5. 二和公民館 (火曜日 19:00~21:00)

りやすく具体的な学習内容となっていた。支援者の真剣な熱意がそのまま学習者に伝わり教室全体に活気がみなぎっていた。

日本語教室の学習者が地域社会に溶け込み今後とも国際交流の舞台で主役を演じてくれることを期待している。

広報委員 前田



国際交流協会行事日程

詳しいことは船橋国際交流協会事務局（047-436-2083）までお問い合わせください。また国際交流協会のホームページにも掲載する予定です。

8月24日(土)～25日(日)	避難所宿泊体験
9月12日(木)	国際理解セミナー開催(ミャンマー連邦共和国)
10月7日(月)～11月28日(木)	週2回 日本語学習支援者養成講座(全14回)
10月10日(木)～12月17日(火)	短期速習日本語講座 第2回(全18回)
10月12日(土)	インターナショナルフェスティバル2013
1月	日本語学習支援者養成講座受講者のためのフォローアップ講座(全2回)
1月	新年を祝う会
2月	数回 現日本語学習支援者のためのブラッシュアップ講座

お知らせ

多文化防災講座（全2回）

- 日 程** 第一回は7月6日(土)に終了
第二回 7月28日(日)「東日本大震災を経て見えたもの」
講 師：(公財) 仙台国際交流協会管理課交流係長 渡辺 芳人 氏
時 間 15:30～17:30
場 所 第二回：船橋市役所11階大会議室
定 員 先着100人 ※1歳～就学前は、保育あり（先着3名要予約）
費 用 無料
申 込 電話で市国際交流室（047-436-2083）へ（二回目のみでも参加いただけます）

2013災害時外国人サポーター養成講座

災害時に言葉や文化が異なることで災害弱者になりうる外国人を支援するサポーターを養成します。新潟県中越沖地震や東日本大震災で支援活動を行った方々を講師に迎え、必要な知識・心構えの講座のほか、模擬避難所で支援体験を行います。

- 日 時** 7月27日(土)、8月3日(土)、24日(土)～25日(日)、9月7日(土)、平成26年3月29日(土)
原則午後2時～4時30分（全5回）
会 場 船橋市役所ほか
対 象 船橋市国際交流協会員として、外国人支援に協力できる人
※ 語学力は問いません
定 員 30人（多数は抽選）※1歳～就学前は、保育あり（先着3名要予約）
費 用 無料
申 込 7月16日(火)（必着）までに、申込書に必要事項を記入して事務局へ（FAX047-436-2089）
※申込書は事務局で配布するほか、協会ホームページ（<http://fira.jp>）からも取り出せます。

※上記2つのお知らせは既に6月15日の「広報ふなばし」及び協会ホームページに掲載されています。

大地震発生！避難所へいこう！

地震の発生を想定し、学校の体育館での避難所宿泊体験を実施します。
実際に、避難所となる学校の体育館を使用した避難所生活を体験することで、いざという時の備えを考える機会にしましょう。
体験訓練では、応急救護法の指導や炊き出しを予定しています。

- 日 程** 8月24日(土)～25日(日)
会 場 習志野台第一小学校
費 用 無料
対 象 外国人住民とその家族 先着50人
申 込 参加者全員の氏名、年齢、代表者の住所、連絡先を明記して事務局へFAX（047-436-2089）または、電話（047-436-2083）で申込み

船橋市国際交流協会主催「インターナショナル フェスティバル 2013」模擬店・フリーマーケット出店者募集！

- 日 時** 2013年10月12日(土) 午前10時～午後3時まで（但し、雨天の場合は翌10月13日(日)に順延）
会 場 天沼弁天公園（JR 船橋駅北口から徒歩4分）
出店者 原則として市内在住、在勤の個人または団体
申 込 参加申込書（別紙）に必要事項を記入し、8月11日(日)までにE-mailまたはFAX、等で担当者の方へお申し込み下さい。
但し、出店数が定数を超えた場合には、受け付けを終了いたします。
申込み先E-mail 実行委員会 模擬店・フリーマーケット 担当者 清河昌之
Tel: 047-336-3540 (FAX 同) mac.kiyokawa3740@nifty.com
模擬店・フリーマーケット 模擬店（飲食出店）、家庭での不要品のリサイクルを目的とするフリーマーケット（いずれも外国人優先）
参加負担金 模擬店3,000円、フリーマーケット1区画につき2,000円

あ と が き

日本兵として釜山で終戦を迎えた人から、降伏後にアメリカ兵から言われたことについて聞いたことがある。「日本は負けた。ラッキーだね、君たちは帰れる。おれたち勝った。帰れない。」この兵士たちは、戦争がちょっと長引けば戦場で撃ち合うことになっていたはずだ。すさまじい損失の末に「永久に」誓ったことを、今わすれてしまっていないのだろうか。
(S.F)